

■今年度の活動内容設定時に参考とした「他校の環境に関する取組」							
取組 テーマ	取組目標	具体的な活動内容		担当者	活動 主体	取り組んだこと、その実績	１年を振り返って
生き物・み どり	植物の育成等を通 して、子どもたちの自然を大切にする心を育てる	１	一人一鉢、花や野菜の栽培（アサガオ、パンジー、ミニトマト、オクラ、キュウリなど）畑での麦やスイカの栽培	１・２年各担当 仲よし級担当	１・２年生 仲よし級	・アサガオ、パンジーの栽培を行った（１年生）。 ・１人で春から夏にミニトマト、冬から春にパンジーを育てた。また、学年の畑で、春から夏にナス・オクラ・きゅうり・ピーマン、秋にさつまも、冬に大根と玉ねぎを育てた。（２年生） ・大豆を育てた。育てた大豆は枝豆にしたり、きな粉にしたりしながら、形を変えていくことの面白さを実感できた。校内で行っている醤油づくりにもかかわった。（３年生） ・一人一鉢、花や野菜の栽培（アサガオ、パンジー、ミニトマト、オクラ、キュウリなど）畑での麦やスイカ、さつまいもの栽培（仲よし級） ・しょうゆのもろみ作りや天地返し、しょうゆ絞りまでを経験した。（仲よし級を中心とした各学年）	【取組の評価】 ☒ 達成できた ☐ ほぼ達成した ☐ 達成できなかった 【理由】 ・１人ずつの野菜や花を育て、観察日記を書き、生長から収穫までできた。また、学年の畑でもそれぞれの野菜を収穫することもできた。気温の変化、降雨など自然を相手に植物を育てる難しさを知り、大切に育てていく心と行動を育むことができた。（２年生） ・様々な大豆食品にふれることができた。（２年生） より多く栽培し、豆腐作りなどにも挑戦していきたい。（３年生） ・植物の栽培を１年間通して行った。「一人一人自分の作物」と意識して水やりや雑草取りを行い、自然に親しむことができた。（仲よし級） 【今後の課題】 ・野菜も一人ずつで育てていきたいが、場所の確保が困難である。自分の野菜となると、育てる気持ちや行動もより一層増すと思うので、今後一人ひとりの気持ちをいかに深めていけるのが課題だと思う。（２年生） 【次年度への引継ぎ事項】 ・冬野菜は、早めに種植えをしないと、修了式に収穫が間に合わないです。（２年生）
		２	ハウセンカ・ヒマワリ・オクラ・大豆を育てる	３年各担任	３年生		
		３	ゴーヤ、ツルレイシを育てる 緑のカーテンを育てる	４年各担任	４年生		
		４	しょうゆ作り	校長 仲よし級担任	仲よし級 各学年		
米作り	田んぼづくり、米づくりを通して、自然を大切にする心や食べ物をつくる人への感謝の気持ちを育てる	１	田んぼづくり しろかきの泥んこ体験	５年各担任 教育施設業務員 総合的な学習担当	５年生 １年生	・しろかきでは、泥の感触にどきどきしながら、みんなで田んぼの中をぐるぐると回り、しろかきに貢献した。（１年生） ・屋上の田んぼを生育途中に数回見学した。わずかな背丈の稲がどんどん生長し、青々とした緑や稲穂が垂れている状態なども見る事ができた。収穫したお米を給食で喫食し、お米のできるまでの過程や手間がかかること、時間もかかることなどを感じ、作ってくれた５年生やお手伝いをいただいた地域の方々への感謝の気持ちを持つことができた。（２年生） ・田んぼを作るところから、稲を育て、収穫し実食することを通して、農業の大変さを感じる事ができた。また、米を作る過程で、さまざまな人と関わり、体験させていただくことで、たくさんの人の支えで生産が成り立っていることを感じる事ができた。さらに、生産の過程で苦勞したことや困ったことなどをベースにして、今後汐見台小学校の５年生になる児童のための、「米づくりマニュアル」を書き上げること	【取組の評価】 ☒ 達成できた ☐ ほぼ達成した ☐ 達成できなかった 【理由】 ・米を育てることで、「ごはん」になるまでの過程や作業等について、教科書での机上での学習だけでなく、実体験としてより身近に感じる事ができた。また、米の栽培には、たくさんの方々の手間と時間がかかっていることもわかり、お米のありがたみ、一粒の大切さを知った。（２年生） 管理職、他学年、地域の方、保護者、前校長先生、栄養士の先生と協力し、情報収集したり一緒に作業したりして、ていねいに米づくりを行うことができた。（５年生） 【今後の課題】 ・５年生の作業が多く、もう少し、学校全体で関わる事ができるというのではないと思う。（２年生） 学校に向けての発信はできたが、地域や茅ヶ崎市に向けて発信することができれば、汐見台小学校の米づくりの価値が上がると感じた。（５年生）
		２	田植え、田んぼの管理	５年各担任 教育施設業務員 総合的な学習担当	５年生 全学年		
		３	収穫、お米を調理し食べる 収穫したお米の活用方法を考え、得られた実感をもとに地域へ発信していく	５年各担任 教育施設業務員 総合的な学習担当 学校栄養士	５年生 全学年		
		４	生育過程の見学	２年生各担任	２年生		

（様式１）学校エコ活動シート

						で、米づくりを伝統として残していきたいという意欲につな げることができた。（５年生）	【次年度への引継ぎ事項】 ・町の中に、田んぼが「ない」ので、こんなに身近にある田んぼを見る ことができる貴重性を生かし、他学年でも生活や理科等でも授業で活用 していけばいいと思う。（２年生） ・本校に、年間を通して行ったことを記録した資料を残している。（５年 生）
資源・廃棄 物削減の取 り組み	ごみの分別・リサイ クル活動等を推進 し、ごみの量を減ら す	１	身近なもののマークの意味を知り、日常的に分別・ リサイクルの意識を高める ごみ箱に具体的な文字やイラストを描き、ごみの分 別を図る	２年生各担任 ４年生各担任 仲よし級各担任	２年生 ４年生 仲よし級	・日頃からごみを分別している。また、図工科や生活科で使 用した材料等、生活科での栽培作業でのごみも分別し、ごみ の削減を意識させている。（２年生） ・生活科で、新聞を割いたり、丸めたりする動きと音を楽し む授業をし、その後もごみではなく、古紙として回収できる ように処分をした。図工科では、トイレとペーパーの芯を 利用した、ヘビを作った。子どもは家でも、もう一つ作った よ、などの報告もしてくれた。（２年生） ・７月と９月に砂の造形遊びを行った。海に親しみ、砂と海 水に悪戦苦闘しながらも、チームでトンネルや水の通り道な どの造形を作り、互いに鑑賞し、今まで以上に海や砂浜を身 近に感じる事ができた。２月に行ったビーチクリーンで は、海のごみには、遊びにきた人が捨てたごみと漂着したご みもあることを知り、ごみ収集に意欲的に取り組んだ。活動 後には、可燃・不燃だけでなく、プラごみ、金属ごみなど、 様々な分別をし、ごみを削減すること、ごみを捨てないこと が環境を守る、きれいな海を維持していくのに、大切なこと を学んだ。（２年生） ・社会科の「健康なくらしとまちづくり」の学習で、環境に 関する学習を行った。（４年生） ・日直の当番の際、使用していない部屋の電気やエアコンの スイッチを切った。（４年生） ・教室移動時、教室の消灯やエアコンの電源を消した。 ・年間を通じて給食指導をし、給食の残食を減らすように取 り組んだ。４年生は３月現在、栄養士に学校の給食を規定量 より多めに配缶してもらっている。（４年生） ・ビーチクリーンについては、定期的を実施することは難し かったが、海には何度か行き、ごみ拾いなどを行った。海に 出かけ海で遊ぶことを通して、海に親しむことはできたと思 う。（６年生） ・ごみ箱に具体的な文字やイラストを描き、ごみの分別を図 る。（仲よし級） ・使用していない照明を消す。（仲よし級）	【取組の評価】□達成できた ☒ ほぼ達成した □達成できなかった 【理由】 ・市のごみ袋が有料になったこともあり、ごみの関心が高いと思う。た だ家庭によっては、分別の基準があいまいなところもあるので、学校生 活でも話をし、活動をしていくことで、意識を高めていくことができた と思う。（２年生） ・総合的な学習の時間で実施しようとしたが、他の学習で忙しくなって しまった。（６年生） ・「プラ」のマークをかくことで、それ以外は「もやすごみ」ということ の理解につながった。（仲よし級） ・使用していない教室の照明をこまめに消すことができた。（仲よし級） 【今後の課題】 ・日頃の生活から、ごみ問題を身近に感じ、当たり前のように分別した り、削減したりすることができるようしていきたい。（２年生） ・年間計画を立て、計画的、段階的に実施していくこと。（６年生） 【次年度への引継ぎ事項】 ・海まで２分程度の距離なので、もっと海のある生活や授業を他学年で も展開していったほしい。（２年生）
		２	古紙や牛乳パックを利用した工作を行う	１・２年生各担任 ３年生各担任	低学年 ３年生		
		３	ビーチクリーンについて考える	３年生各担任	３年生		
		４	道徳「ごみステーション」【勤労・公共の精神】を 学習し、意識を高める	３年生各担任	３年生		
省エネルギ ーの推進	日常の学校生活の 中で省エネルギー 活動を実勢します	１	使用していない照明を消す	仲よし級各担任	仲よし級 教職員		
SDGｓ	できることから始 めることで、 SDGｓへの関心を 高め、未来の持続し ていける社会への 意識付けをしてい く	１	校内での節電・省エネ（担任による声かけ） 特別教室利用時は教室消灯、エアコンのこまめな管 理・手洗い時の水道使用量の減少	４年生各担任	４年生		
		２	家庭科をはじめ、キャンプにおける、掃除やゴミ出 しの工夫 ごみの分別・なるべくコンパクトにまとめる・使え るものの再利用・給食の残食を減らす	５年生各担任 ４年生の各担任	５年生 ４年生		
		３	社会科において日本の産業を学び、消費活動を通 し、最後まで使う責任を心掛ける生活をしていく	５年生各担任	５年生		
海の豊かさ を守ろう	海のごみを減らす ために私たちにで きることを考え実 践する	１	砂の造形遊びを通して、身近な海に親しむ 身近な海のごみ問題について知り、ビーチクリーン 活動を行う	１年生各担任 ２年生各担任	１年生 ２年生		
		２	定期的なビーチクリーン活動をもとに、茅ヶ崎の海 について考える	６年生各担任	６年生 教職員		
		３	地域規模で私たちにできることを考える	６年生各担任	６年生 教職員		

●写真等の記録：活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。

写真

写真

●学校長（推進責任者）によるコメント

【学校長名】 楠山 小百合

昨年度に引き続き、コロナ禍が明けてから再開した米作りや緑化活動など、学校内外の環境を利用した活動も行うことができた。地域との連携の中で休日に行われたビーチクリーンには、多くの児童が参加した。学校の教育活動と地域のエコ活動が相互によい影響を与えているようにも感じる １年であった。今後の検討や改善が必要なものはあり、よりよい方向に向けて取り組めるよう計画していきたい。

【今後の方向性について】

- ・稲作についての今年度の体験を踏まえて、さらに SDGs に関わる学習へ広げていきたい。
- ・身近な地域の学習を通して、エコ活動を当たり前のこととして推進していきたい。
- ・地域の豊かな資源を活用して、学習へ繋げていきたい。